

南アルプス中部縦走

M4 荒川 晶

【参加メンバー】

M4 荒川(単独)

【コースタイム】

7/22(Tue) 上野駅～静岡駅～畑薙第一ダム～榎島(榎島ロッジ幕営) ※移動のみ

7/23(Wed)

榎島ロッジ 03:20～07:45 赤石小屋 08:00～08:35 富士見平 09:00～11:45 赤石岳 13:15～15:20 荒川小屋(幕営) 行動時間：12 時間

7/24(Thu)

荒川小屋 06:30～08:20 中岳避難小屋 08:35～09:25 荒川東岳 09:55～10:55 千枚岳 11:10～11:30 千枚小屋 12:10～13:50 荒川東岳 14:00～14:50 中岳避難小屋 行動時間：8 時間 20 分

7/25(Fri)

中岳避難小屋 05:00～05:15 荒川前岳 05:30～07:40 高山裏避難小屋 07:55～11:00 小河内岳 11:50～12:55 烏帽子岳 13:45～14:35 三伏峠小屋 行動時間：9 時間 35 分

7/26(Sat)

三伏峠小屋 03:10～05:45 塩見小屋 05:55～06:35 塩見岳 08:00～塩見小屋 08:45～10:45 三伏峠小屋 11:50～鳥倉登山口 13:35 行動時間：10 時間 25 分

【概要】

病院面接採用試験の迫る M4 の夏。この間に何とか南アルプスの中部～南部の縦走と、大雪山系の縦走の 2 つをこなしたいと思っていた。しかしながら病院面接日程の調整が 7 月中旬までもつれ込み、7 月中にこの行程を実施すべきかギリギリまで迷った。結果的に行こうと思っていた日程の天気が安定していたこともあって実施を決断したのだが、計画書の提出が直前となってしまう、本間教授を始めとして多くの先生方にご心配をお掛けし、申し訳ありませんでした。

実際の山行は予想した通りほぼ前日とも好天に恵まれ、荒川岳を軸に南アルプスの重鎮とも言える山々を満喫することが出来て、満足度の高いものとなった。迷ったが実施して良かったと思う。

【本文】

<1 日目>

この日は榎島までの移動日である。南アルプス南部はアプローチが悪く(それでも昔よりは大幅改善したと思う)、畑薙第一ダムまで公共交通機関なら静岡から 1 日 1 本の路線バスか、東京から週 4 回運行の夜行バスでアプローチすることになる。実施日は運悪く夜行バスの運転日には無かったので、1 日日程が延びてしまうが榎島へ前泊することにした。

東京から普通列車を乗り継ぎ静岡へ。駅前のターミナルに行くと、15 名ほどの人がバスを待っている。

都内からは車で来る人も多いからか、雰囲気的には関西から新幹線で来た人が多そうだった。

畑薙線のバスは中型観光バスタイプ。この日はさほど混んでおらず隣席も自由に使えたので比較的楽だった。静岡駅を出発してまずは国道 362 号線を走り、途中で県道 60 号線に入り畑薙を目指すのだが、ここのルートは片側 1.5 車線の相当の山道で、よくぞここまでバスを通したなあと感嘆するぐらいの道であった。1 時間ごとに休憩を取り、2 時間後には井川集落到着。さらに 1 時間少々で畑薙第一ダムに到着した。

畑薙第一ダムでは東海フォレストのバスに乗換え。ここは簡単に言えば、「山小屋に宿泊しないと乗せない」バスということで悪名高く、一部の登山者に嫌われる傾向があるが、これは東海フォレストの営業戦略ではなく、道路運送法との兼ね合いである。私が推測するにはこの管内では何らかの理由で「一般旅客自動車運送事業」に当たる路線バス・貸切バス・タクシー営業が出来ないため、やむを得ず、「特定旅客自動車運送事業」の形態を取り、「自社敷地内にある営業小屋利用客の送迎」という名目でバスを運行しているのと思う。バス運行は多少の営業目的があるとはいえ東海フォレストの善意であり、不便さを恨んではいけないのである。なお確認したところ運行に使われていた車輛は全て白ナンバーで、静岡のレンタカー会社からリースされているものだった。因みに井川地区の民宿組合でも同様のサービスを行っているようで、民宿に宿泊した人に限り、茶臼岳・聖沢登山口までの送迎バスが 1 日 2 往復しているようだ。

話が逸れた。路線バスの乗客は数名を除いて、半数以上が樫島ロッジ行きのバスに乗り換えた。乗客は大半が中高年で、いつものことだが若い私は浮いた存在になる。大井川源流を縫うようにバスはダート道を走り、時折運転手のガイドアナウンスを聞く。一つ面白かったのはこの道路が近々始まる JR 東海のリア工事で利用されるようで、南アルプスを貫通するトンネルの掘削工事が出た土砂をこの道を利用して排出する予定なのだそう。そのため近々この道路も完全舗装されるので、ダート道なのも今年が最後なのだとか。途中マウンテンバイクを持ちこんできたと思われる登山者が林道を下ってくるのを何度か見かけた。行程の最後の方では聖岳が姿を見せ、登山道入口の案内を頂いたところで樫島ロッジに到着。

到着が 14:00 過ぎになるのでこの日はここでテント泊。受付を済ませると綺麗な升目に整地されたテント場があって番号順にテントを張る。(気を遣って隣り合う番号は少し離れた場所同士になるように配置されている)この日のテントは 3 張り。隣のテントの人は妙齢の単独行の女性で荒川・赤石を 2 泊 3 日で周回するのだとか。樫島起点ではこのルートが人気のようだ。

時間をもてあまし気味なので周囲を散策していたら、近くに白旗史朗の写真展があったので鑑賞。涸沢ヒュッテにも写真が何枚か飾ってある有名な写真家だが、ほぼ毎年のように南アルプスに入山し写真を撮影しているらしい。なかなか見応えのある写真を鑑賞しつつも、添付された一言を見るたびに、この人は相当アクの強いおじさんなのだろうと思う。どこかの雑誌では人生相談のコラムまで持っていたのだったような…。

ロッジでは何とテント泊の人もお風呂が使えるらしいので使わせて頂く。さほど広くはないが石鹸類も完備してあり居心地のよいものだった。明日は荒川小屋まで歩き通したく、早めに出発したいので日の落ちる 18:30 頃には就寝。ここまで全然登山に関係ないことを延々と書き続けてしまった。

<2日目>

この日は榎島～赤石岳～荒川小屋までを歩く予定。長丁場になることが予想されたのと、南アルプス特有の夕立に遭うといけけないので、02:00起床、03:20とした。起点の榎島の標高は1120m、赤石岳山頂の標高は3120mだからびっしり2000mの登りである。我ながらかなり無謀なプランを立ててしまったものだと少し反省。

とにかくそういうプランを組んだのだから黙々と歩くのみ。まだ暗い登山道をヘッドランプの灯りを頼りに黙々と登る。南アルプス独特の急登が続くかと思ったが昨年の易老渡からのルートほどしんどくはなく、始めは綺麗に植林された針葉樹林の森を黙々と歩く。次第に夜も明けて、日が差すようになる。天気予報の通り今日も良い天気にも恵まれそうだ。6時過ぎぐらいになってから赤石小屋から下山する人たちとすれ違うようになる。随分早いですねえと言われたりしつつ、次第に緩やかになるように感じられた登りを登る。歩荷返しと呼ばれる急登区間を終え、暫くすれば赤石小屋に到着。コース上には榎島～赤石小屋を5区間に分け、0/5から5/5までの標識がおおよそ1ピッチ程度の距離毎に設置されていて目安になった。

それまでも所々で展望がなくもなかったが、ここにきて漸く正面に大きく赤石岳を望むことが出来た。直前まで行くべきか迷っていた山行だったが、やっぱり来て良かったと思えた瞬間である。ぼんやりとしながら過ごすこと15分ほど、そろそろ行かねばと思いたち出発。再び樹林帯やハイマツの中を歩くこと小一時間、大きく展望の開けた富士見平に到着。周囲を山に囲まれているだけありやや圧迫感があるが、地図に記載の通り荒川・赤石・聖の三山を一望出来て素晴らしい場所。思ったより順調なペースで来ていたこともありここでも景色を眺めながら休憩。正面に小赤石岳～赤石岳の稜線が大きく広がる。近くに見えるがまだまだ距離がある。



(左上)榎島～赤石小屋までは単調な樹林帯。左上の標識は距離に応じて分子が増えていく。

(上)赤石小屋近傍にて。奥に赤石岳、右手に富士見平。ここで一気に展望が開けた。

(左)富士見平から荒川岳方面。左よりが荒川中岳、中央やや右が悪沢岳(荒川東岳)





南面には聖岳とその東尾根が伸びる。昨年あの山を訪れた時のことが無性に懐かしく思い出された。



白峰南稜の向こうに富士山が見える。富士山手前は生木割山、その右に策ヶ岳、布引山。

ここから一旦稜線を外れ大きく下り、幾つかある涸沢をトラバースする。足元が悪い場所もあるので慎重に行きたいところだが、どうも今までほど調子が上がらない。急に標高を稼いだから高山病かしらとも思ったが、よくよく考えると昨日昼食と夕食を纏めてしまい摂取カロリーが不足気味のところに、これだけの標高を登ってきたのだからシャリバテではないかと結論付け、行動食を多めに補給。これで調子も良くなったが、如何せん稜線に出るまではさらに厳しい急登が待ち構えていた。カール地形の窪みからてっぺんまで登る格好のため随分しんどい思いをしたが、所定コースタイムを少々オーバーする形で漸く稜線に辿りついた。ここまではほぼ無風状態だったがこの日は西風が強く吹いており、一気に肌寒いぐらいの体感温度になった。ここからは左右の山並みを楽しみながら赤石岳まであと一息。そして11:45、樫島を出発して8時間20分で漸く赤石岳の頂上に到着。

山頂は風が強いしそこそこ人出もあるので近くの風を凌げる場所で一服入れて休憩。北には荒川岳、南には昨年訪れた聖岳が大きく聳え、南アルプス独特のスケールの大きい山並みが広がっている様には感動した。写真を撮影したり、いつものスティックコーヒーを飲んだりしてゆっくりしていると早くも1時間半ほどが経過してしまった。昨年の聖岳ではタイミング悪く周囲の展望を見逃してしまったのだが、今回はバッチリである。



富士見平を過ぎるとやや悪場が続く。こうしたトラバース道も何度か横断。シャリバテ気味の体には少々辛かった。



カールに付けられたジグザグ道を登る。写真では表現し辛いけど相当な急勾配であった。



稜線に出ると赤石岳はまた違った姿を見せてくれた。山頂までの長旅もう少して終わりである。



山頂より北面展望。小赤石岳の向こうに荒川中岳、その向こうに南ア北部の山々も見える。



南面には聖岳が大きい。右には兎岳。兎岳のコルの向こうは加加森山、池口岳の展望。



南西方向には百間平が大きく見え、その向こうに左から兎岳、中盛丸山、大沢岳が見える。



日本最高峰の避難小屋？とも言われる赤石岳避難小屋。規模も大きく、営業小屋さながらの雰囲気。

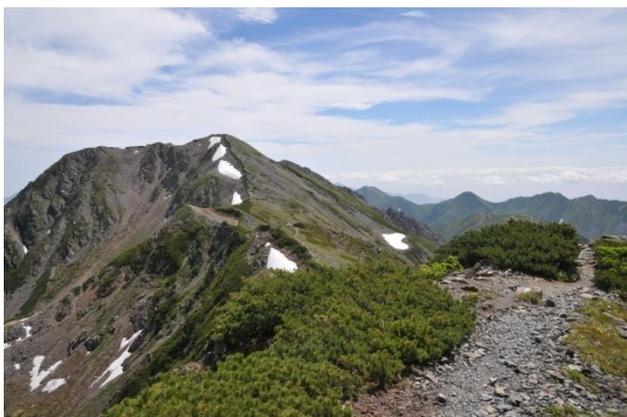


山頂で写真を撮影してもらおう。当時は何とも思わなかったが標識がかなり不思議な形をしている。

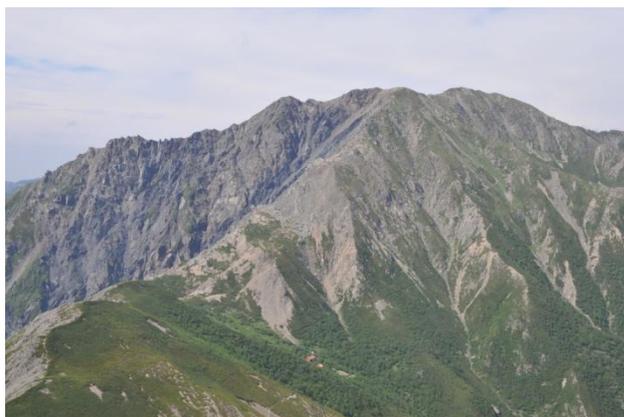
再び荷物を背負い荒川小屋を目指す。相変わらず西風は強いが、雷雨を起しそうな雲は見当たらないので安心できる。小一時間ほど歩いたところで小赤石岳の肩に到着。昨日見た写真展で白旗史朗氏がやたらこの場所に拘って何枚も写真を撮影しているのでどんな場所だろうと気になっていたが、眼前に広がる荒川岳の雄姿に納得。ここでもしばしその姿を鑑賞して、大聖寺平方面へと道を下る。赤石岳

山頂までは何とも思っていなかったが、流石に足が疲れてきたようで少々ふらつき気味になりながらガラ場を下る。大聖平で広河原小屋への分岐を確認して、さらに歩くと森林限界まで到達したらしく再び樹林帯の中に入る。もうすぐ荒川小屋だなどの一心で歩き続け、15:20に漸く荒川小屋に到着。自分の名字の掛かっている小屋ともあったので、折角だから一泊しようと思っていたのだが、その望みが果たされたので良かった。昼食メニューの荒川カレーがそれなりに有名らしいので注文して、荒川小屋バッジを買おうとしたら小屋番さんがサービスしてくれた。良かった。

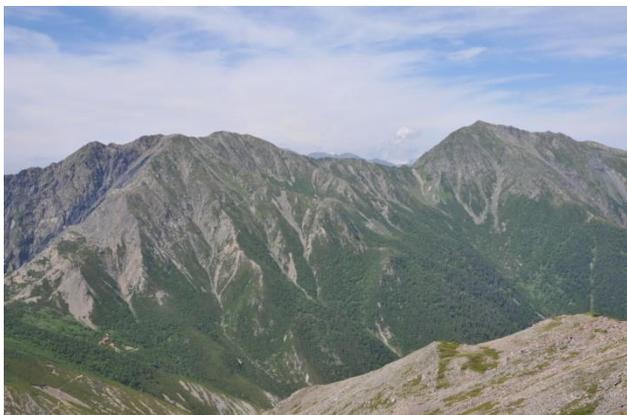
少々くたびれ気味だったのでテントを張ってすぐに昼寝。夕方頃に目覚めていると少々辺りはガスリ気味。夕食を取って、日没頃には寝ることにした。明日明後日で三伏峠まで行けばいいように行程を組んだので、今日しっかり歩いた分、日程は比較的楽になりそうだ。



小赤石岳から赤石岳。正午頃は一時ガスリ気味だったが、再び日が差ししてきた。



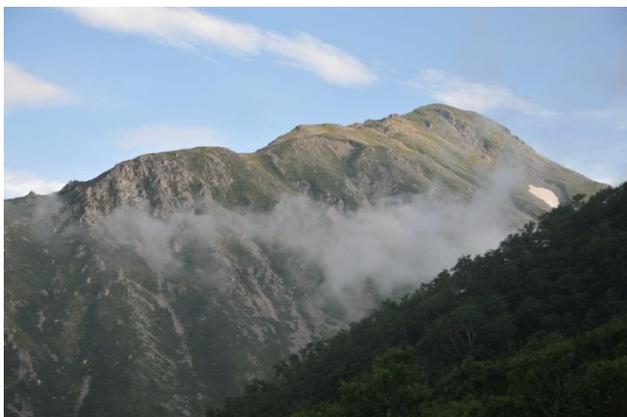
小赤石岳の肩より荒川前岳・中岳。裾野に抱かれる荒川小屋が小さく、また大崩壊地が目立つ。



(左上)同所より荒川中岳と悪沢岳(荒川東岳) 白簾史朗氏が何度も通り詰めるのも納得の展望。

(上)大聖寺平付近の斜面から。高度を下げた分、荒川三山が大きく見えるようになった。大崩壊地の蒼い輝きが美しい。

(左)夕刻、荒川小屋テント場より。小赤石岳が午後の斜光線を浴びる。



<3日目>

この日は荒川三山と千枚岳方面を散策することにして、空いている高山裏避難小屋に泊まるか、中岳の避難小屋で山頂からの展望を楽しもうか考えていた。少々考えたあと、バス券の都合もあるし、中岳避難小屋までと短めの行程にすることで決定。ならばゆっくり起床してもよいし、ゆっくり支度をして大丈夫なので5時起床、6時30分出発とした。

昨日小赤石岳から眺めて予想はしていたものの、荒川中岳までの登りは思った以上にきつく、所々にあるお花畑を眺めながらジグザグ道をゆっくりと登る。すぐ近くに見えていながら標高差は500m以上あるのだからそれも当然かと思う。

稜線に出て少し歩いたところで荒川中岳、この一帯は今日は往復するのだから急がなくていいやとそのままやり過ごして、中岳避難小屋に荷物を置き、サブザックを取りだして出発。ここで丁度初日にテント場で隣だった人と遭遇。今日は赤石岳避難小屋まで行くとのことだ。

サブザックなので体も軽く、中岳から東岳までのコルや急坂もさほど問題なく通過。1時間ほどで荒川東岳の山頂に立つことが出来た。今日は高曇りで山頂一帯もややガスっていたが、南面・北面ともそこそこ展望が良くて満足。山頂でしばし景色を堪能したあと、折角なので千枚岳・千枚小屋まで往復してみることに。思った以上に岩稜帯が続き荒々しい雰囲気のある稜線を通して丸山、一旦標高を下げたところで千枚岳に到着。赤石岳の展望が見事である。



荒川岳稜線へ向かう途中から。小赤石岳と荒川小屋の対比。



出発前に小屋前で撮影。ロケーション的に写真を取りにくいのが残念だった荒川小屋である。



途中のお花畑にはシカの食害防止のためのゲートが設置されてある。



お花畑はこちら。黄色いのがシナノキンバイ、白がハクサンイチゲ。



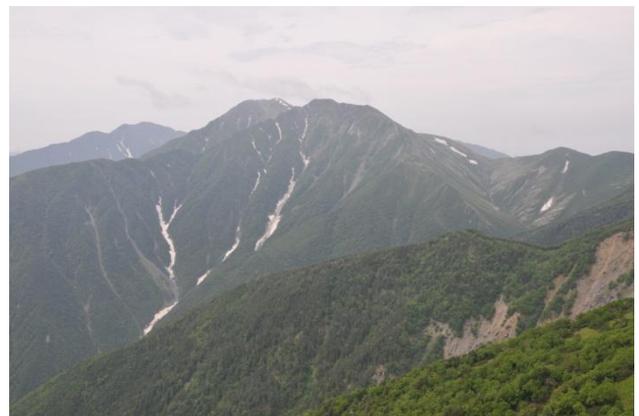
中岳～東岳中間地点から荒川東岳展望。直前までガスっていたが、一旦晴れた。



荒川東岳付近は思った以上に荒々しい岩稜帯。奇岩もちらほら。



荒川岳北面にはカールも散在している。遠景には塩見岳。



千枚岳から赤石・聖・上河内岳の展望。赤石と聖が重なりがちなのがすこし残念。

まだ時間には余裕があるので千枚小屋でお昼を食べるのもよろしかろうということで、森林限界まで下って樹林帯を少々歩いたところで千枚小屋に到着。途中で二軒小屋への道と分岐した。今まで曇りがちの天気だったがここで少々日差しが指す。心地よい天候の下で今日もカレーライスを食べてのんびり。食後には小屋付近をうろうろしていると、荷揚げ用ロープウェイを発見。ヘリでの空輸を行う小屋が多い中、ここは小屋の比較的すぐそばまで林道が維持されており、陸路での資材供給が可能なようだ。

再び来た道を登り返して千枚岳、荒川東岳へ。天気予報的にはこの日も晴れるとのことだったが、午後になって少しガスも出始め、稜線は北方向の風も強く感じられるようになってきた。荒川東岳でカメラを固定してセルフ記念撮影の上で、再び中岳避難小屋へ。途中でテレビクルーが10名ほど撮影していて南アルプスのお花畑特集、といった雰囲気番組を撮影していた。

中岳避難小屋は1Fが炊事兼休憩室兼その他諸々の場所、2Fが寝室、という造りになっており、2Fはそこそこ広いが、1Fは管理人室や物置小屋もあって、やや窮屈な感じの小屋であった。昼過ぎに出てきたガスは夕刻まで中々晴れず、おまけに風も強くなってきたので、のんびりと山頂で贅沢に午後の時間を過ごすという私の目論見が外れてしまったのは少々残念だった。それでも小屋番の人の話は中々に興味深く、聞いていて人を飽きさせないもので居心地は良好。2Fにいた方がスペースがあるので、早めに食事を終えて本を読んだりして、暗くなる前には就寝。



千枚岳避難小屋。近年失火で焼失し、最近建て替えたとのことで綺麗なログハウス調の小屋だった。



昼食のカレー。不思議と味噌汁が付いてきた。野菜類が多かったのは嬉しいところ。



荒川東岳にて記念撮影。自分の名前がこんな立派な山についていて嬉しい気分である。



中岳避難小屋への道すがら、振り返って1枚。一見ならかだが、山頂付近は荒々しい側面がある。

<4日目>

この日は三伏峠までの縦走になる。赤石・荒川の一带は樫島を起点に周回する人が多くかなりの人出だが、荒川～塩見の縦走路は比較的人も少ないので静かな山歩きが楽しめるのではないかと想像していた。

昨晩から続くガスは夜を通じても晴れる気配は一向に無く、山頂一帯がガスっているだけなのか、それとも全般的に天気が乱れる傾向にあるのか分からずスッキリしない気分一夜を過ごす。晴れていれば満天に広がる星空を楽しめたはずだが、こればかりは諦めるしかないかと思う。

小屋の取り決めで朝は03:30以降になるまでは支度は控えてほしいとのことなので、03:30に起床。相変わらず周囲はガスっていて、風も強い。残念ながらご来光を楽しめるような天気ではないのかしらと思いつつ早めに朝食を済ませ、外の様子を伺いながら2Fで待機。

04:30を過ぎると、少しばかり雲の切れ間も出てきたので一旦外に出て、歩いてすぐの中岳避難小屋でしばし周囲の山々を鑑賞。まだガスっている山もあるが、昨日はあまりスッキリと見えなかった北部の山々も一望出来て悪くはない雰囲気。自分の写真を撮影したりして、再び小屋に戻る。風を凌げる位置で待ってはいたのだが、それでもすっかり体は冷え込んでしまい、すぐに出発することにして身支度を整える。05:00頃出発。小屋の人に荒川の大崩壊地の傍で一箇所危険箇所があるから注意してねと言わ

れる。中岳を素通りして荒川前岳へ。気がつけば少しずつガスは抜けて、朝の日差しが目の前の赤石岳に大きく当たり始めている。今日はいい天気になりそうな予感がするも、やはり寒いのでやはり自分の写真を撮影して、朝日を浴びる赤石岳の写真を撮影して、今日の縦走ルートへと歩を進める。始めはハイマツが僅かに顔をのぞかせる稜線を歩く。しばらく歩くと確かに道のすぐ左手側が切れている場所があり、そこを迂回するようにルートが付けられている箇所があった。小屋の人が行っていたのはこのことかと思い、踏跡を忠実に辿りクリア。

さらに行くといよいよ大カールの下りに差しかかる。ここから高山裏避難小屋までの標高差は 600m と南アルプス随一の大下りである。足元はガレていてバランスを崩しやすいので慎重に高度を下げてゆく。自分より少々早めに出発していった 2 人組がいたが、早いものですぐに見えなくなってしまった。やがて道は樹林帯に入り、さらに進んだところで一気に方向を変えてトラバース気味のルートを取るようになる。カール内の斜面は歩きにくかったが、ここから足場も比較的良くなり体も軽くなった。小一時間ほど歩いたところで、高山裏小屋最寄りの水場へ。昨夜は水場がなかったがどのように水汲みの計画を立てたのか覚えていない。さしずめ荒川小屋で 4L 汲んだとかそういったところだろうと思う。

ともかく久々の水場なので今日の行動分の水を補給。高山裏小屋の水場は小屋から往復 30 分ほど掛かるらしく、宿泊予定の人はここで水を汲むと良いとの旨記載があった。

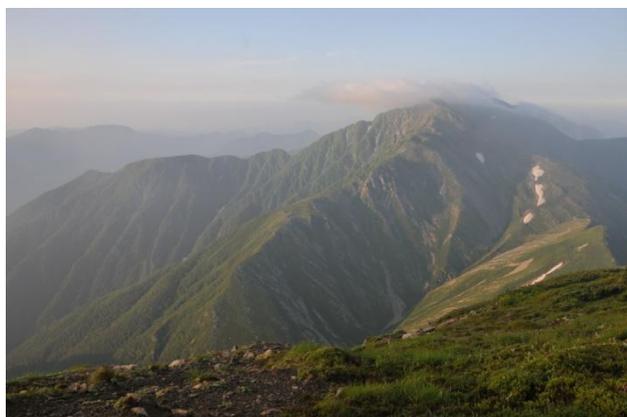
さらに歩を進めるとやがて番号の振られたテント場があり、若い方まで順に辿って行くと高山裏避難小屋に到着。ここまでの 1 人とすれ違っただけなので、昨日の宿泊客はいたとしても数名程度なのではないかと思う。



荒川前岳で記念撮影。ガスも晴れてきた。



こじんまりとした中岳避難小屋。快適に過ごせた。



荒川中岳より赤石岳。改めてその大きさを実感。



荒川前岳でも記念撮影。朝日がまぶしい。



荒川前岳から赤石岳。日の出頃は少しガスっていたが、いつの間にかすっきりと晴れてきた。



荒川岳の大カールを下る。足元はガレていて少し歩きにくい。慎重に。



高山裏避難小屋近くの水場。水量は比較的豊かであるように感じた。



高山裏避難小屋。遠景に荒川岳を望む。こじんまりとしていたが、居心地は良さそうである。

小屋の人としばし話をしてから出発。静かな樹林帯を行く。昨年もそう感じたが、この樹林帯の豊かさが南アルプスの魅力の 1 つではないかと思う。山は少しずつ崩落が起こっているようで、何箇所が大きくガレている場所の淵を沿うように歩く。遠くに見える三伏峠・鳥倉方面の山並みも、巨大な崩壊地が何箇所も目立ちどこか痛々しい。やや目立たないピークの板谷岳・大日陰山を越えて歩く。時折広がる展望地で荒川岳、蝙蝠尾根の展望を楽しみながらのんびりと歩く。小河内岳の近くではおよそ 200m の登り。いつの間にか樹林帯を抜けて日差しが照りつける中、少しきついながらも 30 分も掛からずに山頂に到着した。先に行った 2 人組に、いつの間にか追いついてしまった。

山頂からは地図の説明書にあったように素晴らしい展望が広がっていた。特に南面の荒川岳の展望が素晴らしく、東の蝙蝠岳のなだらかなピークも美しい。手前に前河内岳があり、その向こうの塩見岳も重厚感がある。この時点で 11 時と、まだ比較的時間に余裕があったので 1 時間ほど、写真を撮影したり昼食を食べたりしてのんびりと過ごす。山頂直下には避難小屋もあり、ここで 1 泊すれば快適な一夜を過ごすことが出来そうだ。

休息を取った上で出発。前河内岳を通過して烏帽子岳まで向かう。ここまで来ると今度は塩見岳の展望が素晴らしい。時間もあることだし、ぼんやりと物思いに耽りながら塩見岳を鑑賞…。

気が付くと「ほら、ライチョウがいるよ」の声。先程の 2 人組が声を掛けてくれた。メスと雛が数匹

のグループ。ピィピィというあの鳴き声を再び聞くことが出来て幸運だったし、教えてくれた方にも感謝である。聞くところによれば何度も声を掛けてくれたのにちっとも反応しなかったらしい。

感謝の言葉を告げて、さらに 30 分ほどぼんやりと過ごす。結局ここでも 1 時間ほど時間を潰してしまった。30 分ほど歩くと、大日陰山付近から見掛けた崩落地のすぐそばを通過。近くにはお花畑もあり綺麗。この辺りが丁度近くの水場への分岐になっていたので、サブザックのみを取り出して水汲みに。5 分ほどで水場に到着したが、何故かケーブルが引いてあってご丁寧にラジオが絶賛放送中。変わった趣味だなあと苦笑しながら水汲みしたが、今から思えばクマ対策だったのではないかと思う。そこからさらに 10 分ほど歩くと三伏峠のキャンプ地に到着。テント場は広々としていたが、既に 15 張近くが設置されており思った以上の賑わいであった。多くの人は鳥倉ルートで登り、三伏峠で 1 泊、翌日塩見を往復して下山という行動パターンを取るようだ。テント場の受付を済ませて幕営。

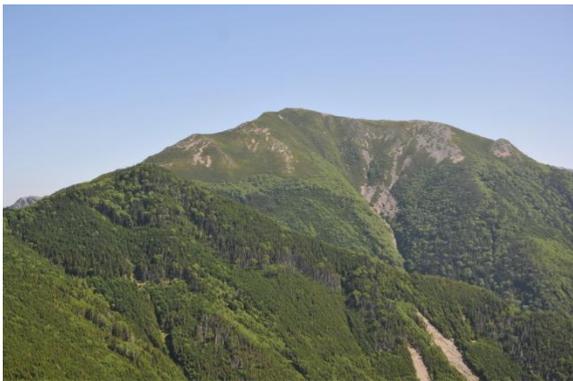
気が向いたら三伏山まで往復しようかと思っていたが、いつの間にか辺りにはガスが出始め、山頂に向かったとしてもあまりよい展望は望めなさそうになってきたので、テントでのんびりと時間を過ごす。明日は早めに起床しようと思っているので、今晚は早めに食事を済ませて、6 時半ごろには就寝。



ルート付近の山塊は随所で崩壊が進んでいる。見ていると少し痛ましい光景だ。



西面には中央アルプス。昨年訪れた播鉢窪小屋付近の大崩壊地が良く目立つ。



(左上)大日陰山から小河内岳。なだらかな山。
(上)小河内岳。この日は天気が良く、スカイブルーが綺麗だった。
(右)小河内岳避難小屋より荒川三山。北面からの展望もまた素晴らしく、しばし見とれてしまった。

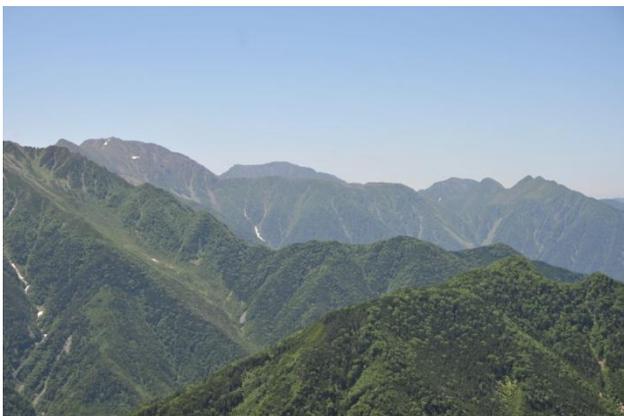




小河内岳避難小屋。山頂より遠景に富士山を眺めながら。小屋番の人は見掛けず。



北面には塩見岳と、蝙蝠岳を眺める。ドーム型の山容が印象的である。



荒川岳の西方向には、赤石岳～聖岳の稜線が展望で来た。奥に見えるのが聖岳。



鳥帽子岳山頂で出会ったライチョウの親子。雛はこの他に3羽ほどいた。



(左上)鳥帽子岳山頂から塩見岳の展望。小河内岳より見晴らしは良好。左奥に仙丈ヶ岳。
(上)三伏峠小屋に到着。ここは別館で、もう少し奥に本館があるようだ。
(左)三伏峠そばのお花畑。シナノキンバイの黄色い花が目立つ。

<5日目>

この日はいよいよ下山日。下山予定の鳥倉登山口へと向かうバスは朝と午後との1日2便のみ。乗り遅れてしまうと翌朝まで待たなければいけないので、遅れないように早立ちを心がけた。起床は2時過ぎ、食事を済ませてヘッドランプの灯りの下、3時過ぎにはテント場を後にした。

サブザック1つなので昨日までと比べて荷物は軽い軽い。15分ほどで三伏山の山頂へ。満点の星空が広がっており、その展望に満足。塩見岳もシルエットでくっきりと浮かんでおり、早朝の山ならではの独特の空気感が芳しい。

三伏峠～塩見岳間はピストンでかなり歩かれているようで、ルートは思った以上にしっかりしている。小一時間ほどで本谷山。ハイマツの隙間より西方面に中央アルプスが大きく見える。ここからさらに樹林帯をひた歩く。稜線を一旦外れ、少し進んだところで塩見新道からのルートと合流。塩見岳への最短ルートとなり得るルートではあるものの、ルートが崩壊しており、さらにアプローチのため相当長距離の林道歩きを強いられるようで、現在は殆ど歩かれていないようだ。

合流点から少々歩いたところで塩見小屋に到着。まだ06:00前で思ったより良いペース。ここまでで何人かの人とすれ違ったが、まだ小屋の前で支度をしている人も多く見かけた。

この辺りから森林限界を越え、露岩帯を歩くことになる。何箇所か岩場があるのは荒川岳などと同様、南アルプスの主峰ならではか。コースタイムでは1時間20分と書かれていたが40分ほどで西峰に到着。この日は朝からすっきりとした晴れで、素晴らしい展望を楽しむことが出来た。歩いてすぐの所には東峰もあり、東方面の展望はこちらが良いように思えた。自分と同じように、三伏峠小屋から日帰りピストンで何人かの人が続々と登ってくる。鳥倉方面へ今日下山という人も多いようだ。

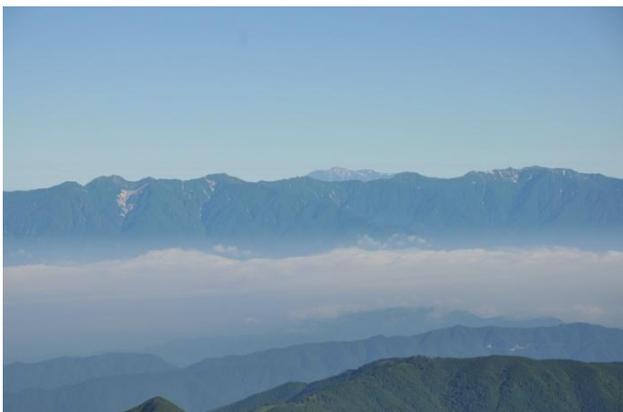
時間には比較的余裕がありそうなので、登ってくる人、降りてゆく人を何人も見送りながら山頂でのんびり。北部の山々をよい光線の下で展望したいという思いもあってかれこれ1時間30分ほども滞在してしまった。C1,C2の頃は山頂で1時間2時間なんて…とっていたが、M3M4になってくると展望の良い場所であればいくら時間を潰しても退屈することはないと感じ始めた。価値観は変わるものである。



(左上)朝の塩見小屋にて。収容人数が少ないため完全予約制。

(上)塩見岳西峰にて。遠景に富士山を見る。

(左)西面に中央アルプスを眺める。右が木曾駒ヶ岳、中央やや左に空木岳、その左に播鉢窪の大崩壊地と南駒ヶ岳。稜線の向こうに御岳山が頭を見せる。

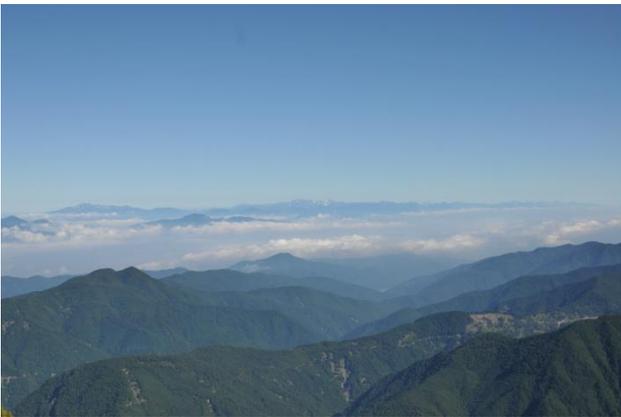




南面には荒川三山、赤石岳は荒川中岳の後ろにかすかに頭を覗かせる。右に小河内岳が大きい。



北面には左から仙丈ヶ岳、奥に甲斐駒ヶ岳、中央に北岳と間ノ岳、右に農鳥岳が見える。



遠いが北アルプスもバッチリ。乗鞍から槍穂高、立山剣から鹿島槍～白馬まで全て見えた。



東面には蝙蝠岳が美しく、遠景には富士山がくっきり。

自分の中でタイムリミットと決めていた 08:00 に山頂を後にする。岩場を下り、天狗岩に立ち寄りながら塩見小屋へ。この時間から生ビールを頼んでいる人が居る。少々休息の後に出発し、来た道を引き返す。本谷山付近までは素晴らしい塩見岳の展望を望めたが、ここを過ぎると少しずつガスが出てきて、三伏山に着くころには塩見岳はすっかり見えなくなってしまった。塩見岳からの展望が素晴らしかったのでまあ良いかと思っておし、三伏峠小屋に。時刻は 10:45、思ったより良いペースで回ってくる事が出来た。

ここでゆっくりとテント撤収。この時間ながら早くもテント場には今晚の宿泊客が続々とやってきて大賑わいの様子。やはり週末で人気が高いからかと思っていたが、この時期夜叉神峠から広河原に至る林道が土砂崩れで通行止めになっていたようで、そこから人が流れてきたのも影響しているようだ。

1 時間ほどゆっくりして鳥倉への下山を開始。一旦稜線を外れてジグザグ道を下り、20 分ほどで塩川ルートの分岐点へ。南アルプスらしい深い樹林の中を歩いたところで、水場に到着。ここで下山後に飲むための水を補給。少々休憩を入れて、斜面のトラバース気味の道を歩く。途中でコルを越えて稜線の南面に出てしばらくゆくと沢筋に降りる。ここから少々歩くと林道が見えてきた。ここが鳥倉登山口のバス停。すでに 10 人ほどが先に到着して、日陰を探るようにしてバスを待っていた。

小一時間ほどの待ち時間でバスが到着。この日は 2 台体制で、1 台は松川 IC への直行便、もう 1 台は

各バス停に停まる通常運行の便だった。松川から乗り継ぐ高速バスは変わらないので、空いている後者のバスに乗車。山を下るにつれて全身を包むような暑さが身に染みる。夏だなあと思いながら、南アルプスの山並みを後にした。



塩見小屋。天気も良く布団干し中。手前が天狗岩、奥が塩見岳山頂。さながら双耳峰のよう。



本谷山付近から塩見岳方面を望む。昨日の展望とはまた違った趣。



三伏山と遠景に烏帽子岳。早くも稜線にはガスが掛かり始めた。



鳥倉登山口に向けて、樹林帯の道を下る。



鳥倉登山口バス停。ここまで降りれば日差しは眩しく暑さを感じる天候であった。



林道は途中の駐車場まで未舗装で、バスは通過の度にゲートを解錠して通過する。